

2007年11月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球の500 hPa 面高度では、北大西洋で上旬から中旬に発達したブロッキング高気圧に伴う正偏差が明瞭だった。11月を通して準定常ロスビー波の波束伝播が明瞭で、下旬にはアリューシャンの南でトラフが、その東のアラスカでリッジが発達した。北大西洋とポーフォート海にはリッジに対応した対流圏下層(850 hPa)の高温偏差が、ロシア西部とカナダ北部ではトラフに対応した低温偏差が見られた。亜熱帯ジェットはヨーロッパから極東域で北偏し、北太平洋では平年よりも強かった。太平洋のストームトラック域での高周波擾乱の活動は平年よりも不活発だったが、大西洋では平年よりも活発で、活動の中心は北偏していた。

熱帯の対流活動は、フィリピン付近から西部太平洋、南太平洋収束帯 (SPCZ) にかけて平年より活発で、特に月の後半に顕著となった。一方、中部・東部太平洋、南米大陸にかけて、対流活動は平年より不活発、赤道季節内振動 (MJO) の活発な位相の東進は、インドネシア付近から西部太平洋にかけて非常に遅くなり、不明瞭となった時期も見られたが、下旬後半に入って明瞭となった。上層では、西部太平洋を中心に対流活動が活発だったことに対応して、赤道を挟んで

西部太平洋では高気圧性循環偏差の対、中部から東部太平洋にかけて低気圧性循環偏差の対が見られた。下層では、太平洋の高気圧性循環偏差が平年より強かった。太平洋赤道域の下層では東風偏差、上層では西風偏差が2007年6月以降持続している。

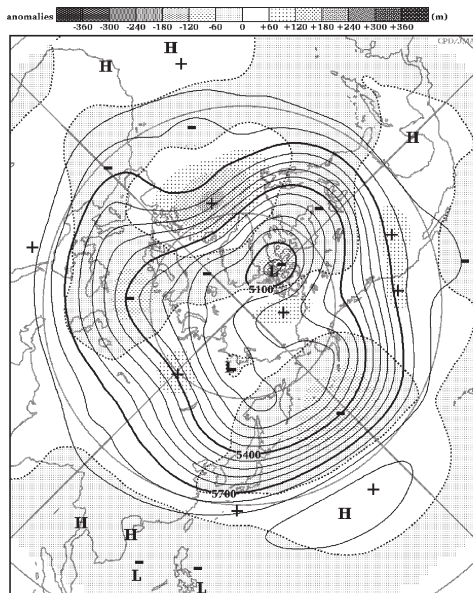
南方振動指数 (SOI) は+0.8となった。

世界の天候

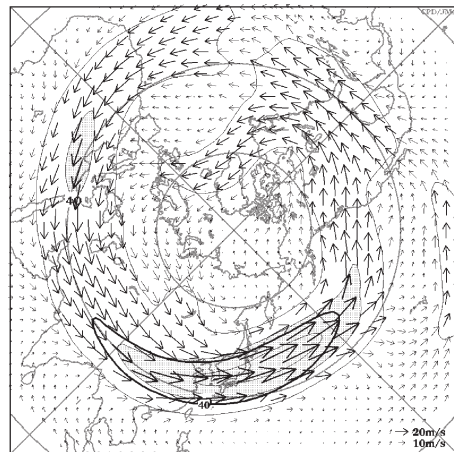
- 世界の月平均地上気温平年差は、+0.17°Cだった。
- シベリア東部からアラスカ北部では、異常高温となった。
- ロシア沿海州から華南では異常少雨となった。
- バングラデシュではサイクロン「シドル」による被害が伝えられた (IRIN による)。
- バルト海沿岸からトルコでは、低気圧や前線の影響を受けやすく異常多雨となった。
- 米国東部では、異常少雨となった。

(気象庁地球環境・海洋部気候情報課)

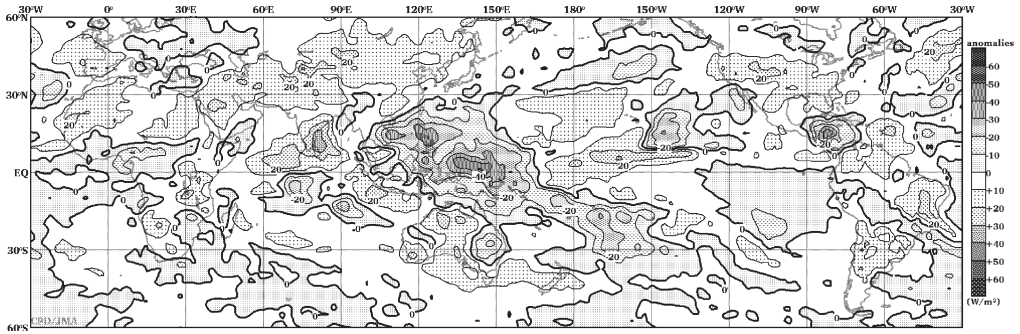
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



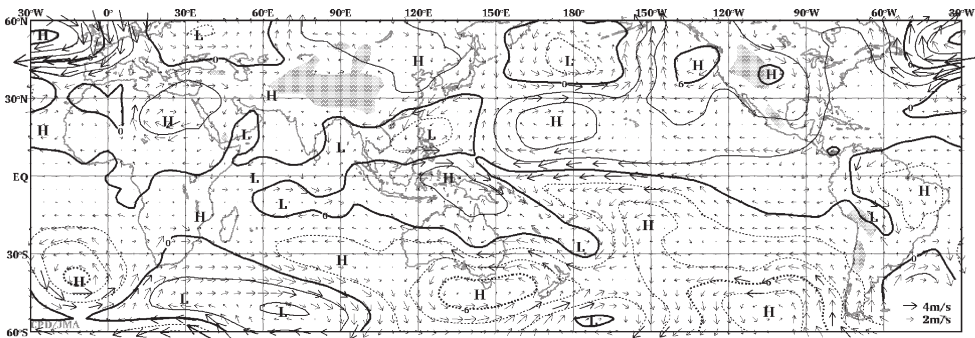
2007年11月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差
 等値線間隔は 60 m, 陰影は平年偏差。平年値は 1979~2004年のデータから作成。



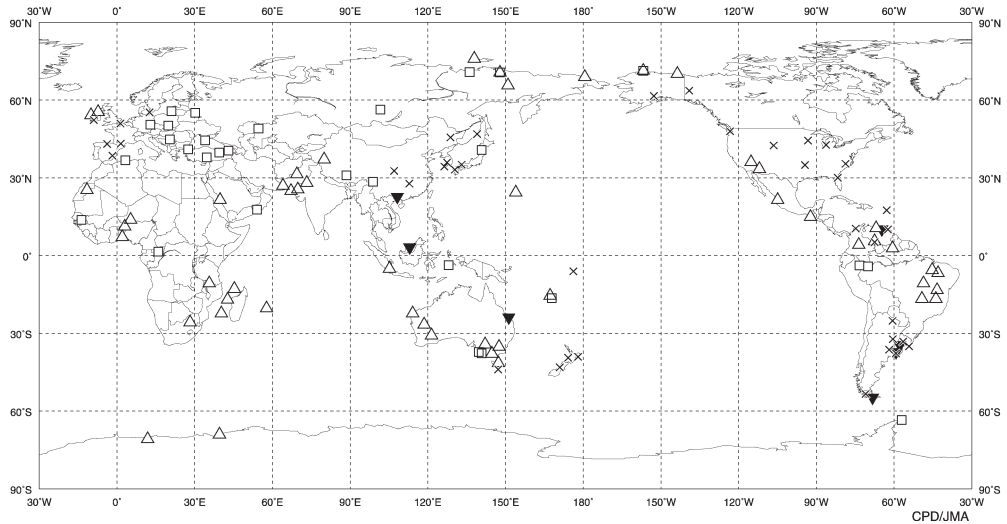
2007年11月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル
 等値線間隔は 20 m/s, 陰影部は 40 m/s 以上。太実線で囲まれた領域は平年の 40 m/s 以上の領域を示す。平年値は1979~2004年のデータから作成。



2007年11月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA, 平年値は1979~2004年のデータから作成。



2007年11月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$. 平年値は1979~2004年のデータから作成。



2007年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0.